

商ひょうご

vol.

147

2019.10



商店街・市場探訪

空き店舗・空き家活用プロジェクトで再活性化を図る商店街
～社商店会連合会～

商売繁盛の裏ワザ

全国から依頼が集まる
～カバンコンシェルジュ キヌガワ～

トピックス in ひょうご

広報誌・空き店舗活用、少しの工夫で利用しやすい市場づくり
～マルシン(丸神商業協同組合)～

トピックス in 全国版

深みのある大人の街、感性の高い街を目指す
～福山本通商店街振興組合～(広島県福山市)

お店 拝見

明石の海の幸たっぷりのお弁当とおにぎりが自慢!
～地元特産品販売じんだい～

商店街・市場探訪

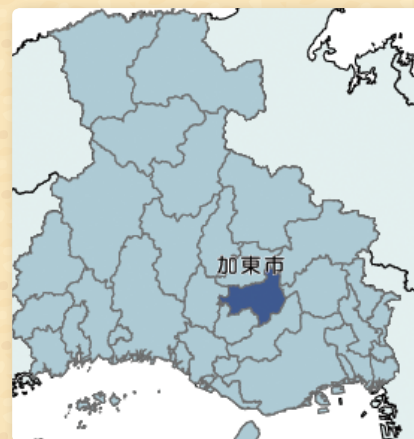
空き店舗・空き家活用プロジェクトで再活性化を図る商店街

～社商店連合会～^{やしろ}（加東市）

加東市は兵庫県の播磨地方の東側、県中央部やや南よりに位置しており、社商店連合会はその中心地加東市社にあります。社商店街は佐保神社の門前町商店街として形成されました。当地は東西に渡る街道や水運の発達により交通の要所として古くから栄え、現在でも北播磨県民局や裁判所、法務局、検察庁などが設置されています。

市としては人口 40,171 人（令和元年6月末現在）の規模ですが、大学や複数の工場団地があることなどから宅地開発が進み、人口は近年、微増傾向にあります。しかし他地域同様、モータリゼーションの進展などによりバイパスが整備され郊外店が出店したことで、商店街は衰退し、空き店舗が増えています。

そのような中、商業者が中心となり空き店舗・空き家を活用しようとプロジェクトが立ち上がったのです。



（加東市都市計画マスタープランより）



■取り組みのきっかけ

取り組みのきっかけは、現会長の小紫吉猛さん^{よしたけ}が販促委員長となったことからです。それまで販促の効果を検証したり、新たな取り組みを検討するなどはあまり行われていなかったことから、自らの発案で販促委員会の活動を活性化させました。これは自身がショッピングセンターのテナントで出店していた経験からです。

しかし、初年（平成 26 年）度は知見等がないことから月1回の委員会を繰り返すだけに止まり、具体的な活動にはつながりませんでした。平成 28 年に小紫さんが商店連合会の会長になったことなどを契機に販促委員会のメンバーも一部入れ替わることとなり、2代目などの若手が参画することとなりました。

そこに、ひょうご産業活性化センターの「商店街新規出店・開業等支援事業」を活用して出店したカフェの新規開業者も参加しており、「遠方からの来店があるが、多くの人から店までの道がわからないと言われる」との意見がありました。その声をきっかけとして取り組んだのが「やしろぶらりお散歩マップ」です。

マップづくりでは、改めて街や商店街の成り立ちなどを振り返り、会員事業所とともに紹介しました。ここでわかったことは、江戸時代から続く“社”の歴史であり、昭和 30～40 年代には 100 店以上

が軒を連ね、映画館もあったというにぎわいぶりです。マップの完成は年度末となりましたが、お披露目



お散歩マップ

を兼ねて「やしろぶらり」と冠してスタンプラリーを実施し、同時配布しました。また、秋の「山田錦乾杯まつり」や「佐保神社秋祭り」に合わせて2回目のスタンプラリーを行い、改めて配布しました。

この活動で歴史ある建造物が街にあることがわかり、これを再認識しようと次のステップに進むこととなったのです。

■活動発展の経緯

往年のにぎわいを取り戻そうと、3年目に立ち上がったのが「社のおにわ亭」という空き店舗・空き家活用プロジェクトです。当初、小紫会長から「商店街でマルシェを」との発案がありましたが、商店街としてはまだその体力も素地もないことから、空き店舗や空き家を活用することになりました。目指しているのは「かつて栄えた社商店街の歴史ある建物を活用し、多くの方が利用でき



る憩いの場づくり」です。

第1回目の開催は「空き家開き vol.1 ～社のおにわ亭 in いちふじ～」と銘打ち、平成 30 年 2 月 10 日に開催しました。使われていない空き店舗・空き家（築約 100 年の古民家）1軒を 1 日限り解放したイベントで、出店は雑貨店や和菓子屋、カフェなど 11 店におよび、併せて着物の着付け教室や似顔絵、手相などのワークショップも行いました。

物件の確保は会長のネットワークが、また出店者集めは おにわ亭当日の様子 販促委員等と地元の市などへの出店経験があるママさんとのネットワークが活きました。当日は冷たい雨が降る日となりましたが、30～70 歳代の人たちが 350 人も集まり、盛況となりました。また、出店者からも他のイベントと比べて客単価が高いと好評を得ました。

第 1 回おにわ亭来場者の一人から「親戚が営んでいた米屋跡が空いたままとなっているが同じように使えないか」と提案があり、これが2回目の会場となりました。開催は平成 30 年 9 月 15 日で、「空き家開き vol.2 ～社のおにわ亭 in こうづき+広場」と銘打ち、実施しました。

会場となったのは 1886（明治 19）年に創業した上月米穀旧店舗です。米どころの当地らしく米問屋として栄えた名家跡で、往時は地域の迎賓館としても使われたことから、苔と石からなる坪庭があります。イベント当日はこの落ち着いた空間を活かした音楽演奏なども行われました。

3回目は平成 31 年 2 月 16 日に開催し、増田人形本店が大正初期の 1912 年ごろから営業していた旧店舗を活用できることになったことから、こちらを「ますだ亭」、上月米穀旧店舗を「こうづき亭」と名付け、2会場で実施することになりました。そのためタイトルも「社のおにわ亭 vol.3 ～古民家マルシェ」としました。

4回目の開催は令和元年 8 月 24 日に開催し、これまでの開催は 10 時から 15 時までとしていましたが、今回は 14 時から 20 時までとし夜の開催を試み、タイトルも「社のおにわ亭 vol.4 ～古民家夕焼けマルシェ」としました。会場は「こうづき亭」と「ますだ亭」で、28 店舗が出店しました。



回を重ねてきたことによって来場者は徐々に増えてきており、「昔はこうだった」とにぎわいを懐かしむ声も聞こえてくるようになっていきます。会場も「こうづき亭」1階のみの活用でしたが、3 回目から 2 階も使うようになってきています。

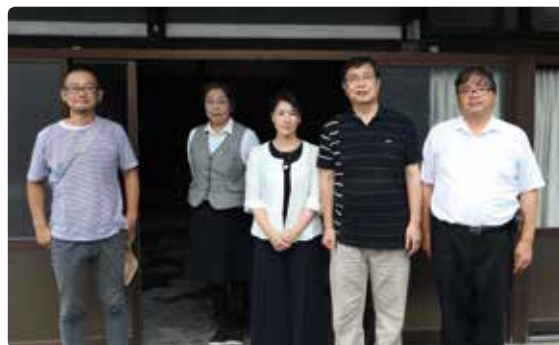
■今後に向けて

販促委員会は専門家を招くなどし、勉強会を兼ねて継続してきました。委員も商店会員だけではなく一般の人にも声かけし、参画を呼びかけました。それにより 6 名の協力者が得られたことから平成 29 年度から会名を「販促委員会拡大会議」としました。

さらに、イベントが軌道に乗ってきたことから今年度からは「社のおにわ亭実行委員会」としています。これまでは商店街のイベントとして活動してきましたが、出店者が農家などにも広がりを見せており、イベント規模が大きくなることが予想されることから、組織としての独り立ちを検討しています。

社商店連合会では、おにわ亭の出店者が開業する手助けとなるよう、今後は、空き店舗・空き家をレンタルスペースなどにも活用できる“市民の人が中心になった拠点づくり”として、取り組みを進めたいとのことです。

（中小企業診断士 志賀公治）



左から中脇さん、黒崎さん、伊藤さん、小紫会長、吉田さん

社商店連合会・ 社のおにわ亭実行委員会

住 所：加東市社 717-1 加東市商工会館内

電 話：0795-42-0253

会 長：小紫 吉猛

U R L：<http://www.yashiro-shotengai.jp/>



oniwatei



oniwatei

商売繁盛の(裏)フザ

全国から依頼が集まる

カバンコンシェルジュ キヌガワ

カバンコンシェルジュキヌガワは、豊岡市の宵田商店街(カバンストリート)でカバンのクリーニングと修理を行っており、第5回ひょうごいいね!お店表彰地域連携部門で大賞を受賞されました。創業は1913年で先々が衣類クリーニングのお店としてこの地で開業され、現在、売上は衣類クリーニングが全体の4割、カバンのクリーニングと修理が6割をしめています。衣類クリーニングのお店が、どのようにしてカバンのクリーニングや修理を手掛けるカバンコンシェルジュとなったのか。そこには、豊岡宵田商店街の活性化と密接な関係があります。今回の商売繁盛の裏技は、地域の活性化と自店の商売をどう関連させ発展させていったのか、その秘訣を3代目の衣川克典さんにうかがいました。



■地域のことを考える

豊岡の宵田商店街は、豊岡市の中心市街地にある商店街です。豊岡はかつて三丹^{いち}栄えた町と言われ、この商店街にもたくさんの店があり賑わっていました。しかし郊外に大型店ができると人の流れが変わり、閉店していくお店も増え、人通りも少なくなっていきました。だんだん寂しくなっていく商店街をなんとかしなければと、衣川さんたち商店街の若手メンバーが集まり話し合いを始めました。それが2003年頃です。



カバンストリートのリーフレット

その時出たアイデアが「豊岡はカバンの街だから、カバンストリートにしてはどうか!」でした。今では有名な豊岡カバンストリートですが、この当時、商店街にカバン屋は一軒もありませんでした。「カバンの街なのに、商店街にカバン屋がない。それはおかしい。」そんな発想で生まれたアイデアでした。

■仲間と動く。若手が動く

カバンストリートのはじまりは、カバン会社さんの

カバンを借りて、自分の店に置かせてもらうことからはじめました。そして次はお店がなくてもせめて月に1回くらいはカバンストリートらしくしようと、カバンのお店が集まるカバンストリートマルシェ(カバストマルシェ)を始めました。けれど、最初はなかなか出店者が集まりませんでした。そこで、カバンに限らず革小物などを作っているクリエイターにも声をかけ、徐々に出店者を増やしていきました。

この月1回のカバストマルシェにはもうひとつの狙いがありました。それは、「空き店舗を月に1回くらいなら貸してもいいな」と大家さんに思ってもらうことです。月に1回からはじめて、徐々に空き店舗を貸すことに理解を示してもらえればと考えたのです。

カバストマルシェを続けていくうち、豊岡まちづくり株式会社がアルチザンアベニューという豊岡鞆のセレクトショップとスクールを商店街にひらきました。そしてその後、3つ、4つとお店ができはじめ、カバストマルシェのクリエイターの出店もあり、徐々にカバンストリートができあがっていきました。

■地域のお店が生き残るには、

地域外の需要を取り込む

衣川さんは、カバストマルシェの活動や、衣類クリーニングの事業をしながら、新たな事業の柱を探していました。なぜなら豊岡の人口は毎年1,000人ペースで減り続けており、地域の人を対象にしている衣類クリーニングは厳しくなっていくことが予想できたからです。これからは地域外の需要を取りこめる商売をしなくてはと考えていました。けれどもこの頃はま



鞆修理相談会のチラシ

だカバンクリーニングが商売になるとは気づいていませんでした。きっかけとなったのは2004年の台風です。2004年10月23日に台風23号が来て、豊岡が水につかりました。この時たくさんのカバンが衣類クリーニングのキヌガワに持ち込まれたのです。「濡れてしまったカバンをクリーニングできないか」と。

当時、衣川さんにはカバンをクリーニングするという発想はありませんでしたので、この依頼は驚きでした。そして、これはこれからの事業の柱になるかもしれないと思い始めたのです。

■地域に助けられ独自の技術をみがく

衣川さんは、カバンのクリーニング方法について勉強をはじめました。カバンには洗濯表示もなく自分で勉強するしかありませんでしたが、カバンストリートの活動で知り合ったカバン会社さんや職人さん、素材屋さんが親身になって一緒に考えてくれました。そして、徐々になんとかいけるのではないかという感触をつかみ始めたのです。

2008年にはじめて百貨店に出店しました。豊岡鞆フェアが博多大丸であり、この一角に「かばんクリーニング工房キヌガワ」として出店することができたのです。どうなることやらと思って参加しましたが、なんと3日間で30点ほどのカバンの持ち込みがありました。衣川さんには驚きであり、お客さんのニーズを目の当たりにした瞬間でした。



修復作業中

■価格には代えられない価値を提供する

衣川さんはお客さんと仕上りのイメージを共有することをとても大切にしています。それはカバンには持ち主の思いがたくさんつまっているということをお客さんに教えられたからです。あるお客さんが1万2000円程度で購入した合皮のかばんを持ってこれ、傷んでしまったけど大好きだから革にかえてほしいと依頼されました。衣川さんが見積もると5万円になりました。衣川さんは、「このお見積もりでは、お断りになられるだろう。5万円だせば新しいカバンが買えるし・・・」と思ったそうです。衣川さんは、断られると思いながら見積額を伝えました。でもそのお客さんは断りませんでした。衣川さんは、「価格で判断していた自分自身が恥ずかしかった」と感じたそうです。お客さんからカバンには価格には代えられない価値があることを教わりました。

2018年にカバンクリーニング工房キヌガワは、カバンコンシェルジュキヌガワに名前をかえました。この名前には、カバンのことならなんでも相談できる存在になりたいという意味が込められています。そして、カバンの修理、クリーニングで名実ともに日本で一番になり、豊岡に貢献したいとおっしゃっています。

(中小企業診断士 芳田京美)



衣川さん

店名

カバンコンシェルジュ キヌガワ

代表取締役社長：衣川 克典

住 所：豊岡市中央町18-8カバンストリート

T E L：0796-37-8012

F A X：0796-22-2290

M A I L：info@kinugawa-cl.jp

営業時間：9：00～18：00

定休日：日曜日

H P：http://kinugawa-cl.jp/

広報誌・空き店舗活用、少しの工夫で利用しやすい市場づくり マルシン(丸神商業協同組合) (兵庫県神戸市)

西日本最大級の商店街、神戸の台所とよばれている神戸新鮮市場の北端、神戸電鉄「湊川」駅・神戸市営地下鉄「湊川公園」駅から北へ徒歩10分、神戸市バス「熊野橋」にマルシン(丸神商業協同組合)があります。

昭和22年6月公認丸神市場として開場、昭和33年12月に丸神商業協同組合を設立、昭和57年3月に現在のマルシンがオープンしました。

生鮮食料品・惣菜・衣料・雑貨店など様々なジャンルの27店舗が営業、空き店舗は15店舗です。空き店舗は、子育てほっとステーションなどのお客様のためのスペースや休憩場所として有効活用、QRコード決済PayPayを導入するなど様々なアイデアを実現されています。



アイデアを実現する行動力

マルシンは、3つの市場と2つの商店街(マルシン、東山商店街、ハートフルみなとがわ、ミナイチ(建て替え中)、湊川商店街)で構成され、神戸の台所とよばれている神戸新鮮市場の北端にあります。市場と直結した契約駐車場もあり、来場者が多い立地ですが、全体の店舗の4割が空き店舗です。しかし、空き店舗はシャッターが閉まった状態ではなく、ワークショップなどで利用することができる「marushin47(よんなな)」、授乳室を備えた「子育てほっとステーション」、売上を被災地に寄付する本屋「ブックココロショップ」など、お客様が気軽に利用していただく場所として有効活用しています。

さらに、子育て中の方にも気軽に利用していただけるように親しみやすい広報誌「湊川マルシン手帖」を発行、ブログやFacebook、LINE@などのSNSを活用するなど、様々な方法での情報発信を行っています。

また、マルシン通貨、スタンプラリー、など、お客様が来店したくなるイベントも開催しています。

QRコード決済PayPayの導入の際には、販促委員長が各店舗に導入を呼びかけ、9割以上の店舗で利用することができます。ポイント還元サービスがあるため、高齢者のお客様もPayPayを利用されているそうです。

空き店舗スペース活用 その1

○marushin47(よんなな)

貸し教室として活用していたスペースは、今年6月末にペンキ塗りワークショップを実施し、リノベ

ションしました。9月中旬からは、週1回、ご飯とお味噌汁を購入していただいたお客様がマルシン市場で購入されたお惣菜等を店内で食べていただけるようなお店を開業します。その他の日は、ワークショップとしての利用はもちろん、シェアキッチンとして飲食業も可能なチャレンジショップとして利用していただける方を募集します。

空き店舗スペース活用 その2

○子育てほっとステーション「まるしんマミールーム」

6年前に理事長の発案で設置した「まるしんマミールーム」、清潔で可愛い雰囲気的空間です。授乳室やおむつを替えるベビーベッドがあり、子育て中の方が安心して市場に来ていただくことができます。



空き店舗スペース活用

空き店舗スペース活用 その3

○ブックココロショップ

寄贈していただいた本を 50 円、100 円で販売し、売上は東日本大震災の被災地などに寄付しています。

空き店舗スペース活用 その4

○休憩・情報発信フリースペース

買い物の途中に休憩したり、お友達やご家族と一緒に購入したお惣菜やパン、スイーツを食べたりすることができるフリースペースとして利用していただいています。

雑誌風の店舗紹介～マルシン手帖

「マルシン手帖」は平成 30 年 7 月に 1 万部発行されたマルシンの店舗を紹介している冊子です。「生鮮食料品」「惣菜」といったカテゴリーではなく、「市場のニューウェーブ」「まっすぐな技と手間」「頼れるプロの目」のように読む方が興味を持っていただけるタイトルで、雑誌風に店舗を紹介しています。



親しみやすいイラストの表紙「マルシン手帖」

また、マルシンで買い物をしたくなるような複数のお店の食材でつくるメニューを紹介した「買って載せただけのプレートごはん」や「初めてのおつかい」などの読み物としての記事もあります。

イベント開催でお客様に来ていただく きっかけづくり

偶数月にはマルシン通貨、奇数月にはトクトクスタンプラリーと毎月、お買い物をしていただければ、得をするイベントを開催しています。



各店舗でもワークショップを開催

マルシン通貨は、偶数月の第 4 木・金曜日に 100 円券 11 枚綴 1,100 円分を 1,000 円で 500 セット限定で販売しています。トクトクスタンプラリーは、奇数月の第 4 木・金・土曜日に 1 店舗にて 500 円以上のお買い上げでスタンプを押印、3 店舗分のスタンプが集まった用紙が 300 円の金券としてご利用いただけます。

夏休み期間にはワークショップを開くなど、お店ごとの取組も活発です。

新しいツールをお客様のために 使いこなす努力

ポイント還元でお客様が得する「QR コード決済 PayPay」を今年 3 月から導入しました。マルシンの販促委員長が各店舗に説明することで市場の 9 割以上の店舗で利用可能です。ポイント還元があることで高齢の方も含めて多くの方に利用していただいています。



2 年前から開始した「マルシン デジタルサイネージ 市場 LINE @ (ID: @myb8716n)」は 100 名の登録者がいます。今年 3 月から開始した「市場ブログ」とホームページと連動した Facebook ページでは、ワークショップやスタンプラリー、市場の日常をリアルタイムに情報発信しています。

8 月には「可動式デジタルサイネージ」を導入し、綺麗な画面でイベントや市場をタイムリーに紹介することができるようになりました。

様々なアイデアを実現する行動力は全てお客様にとって便利な市場であることを優先しています。凝った料理に合わせた素材を教えてくれるお店、手軽に食事を準備することができる品揃え、近隣の方が集まるスペースなど市場としての機能をお客様のニーズに合わせて変化させ、キャッシュレスや SNS などの新しいツールを利用しながら、成長するマルシンは今後も多くのお客様の生活を支える場、食卓を創造してもらえる市場として支持されるでしょう。

(中小企業診断士 宇田名保美)



左から枝川さん、山形さん、森さん、森理事長、西島さん

丸神商業協同組合

住 所：神戸市兵庫区東山町 2 丁目 8-61

電 話：078-521-6817

理事長：森 祥行

U R L：https://marushin-ichiba.com/

深みのある大人の街、感性の高い街を目指す 福山本通商店街振興組合 (広島県福山市)

■樹と空に囲まれた商店街

福山本通商店街から船町商店街にかけて約450メートルの通り沿いに植えられた樹木が白い石畳に緑陰を落とし、足元の草花が商店の店先に季節の彩りを添える。視線を上に向けると太陽の光で銀色に輝く7,000本のステンレスワイヤーが通りを覆い、レースのように風になびく様が瀬戸内海のさざなみを思わせる。



ワイヤーアーケード

これが2016年に完成した新しいアーケード街「とおり町ストリートガーデン」の姿です。開放感のある空間と季節ごとに違った表情を楽しめる商店街に生まれ変わったことで、通行人の増加や空き店舗の減少という確かな効果を生み出しています。

■商店街をやめるか

福山本通・船町商店街は江戸時代に栄えた福山城下の商人町「とおり町」を起源とし、商いの中心地として長く繁栄した地域でした。しかし、広島県の第二の都

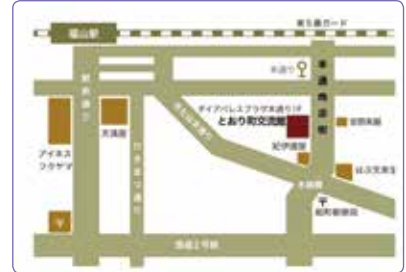


まちなか情報室ぜっぴ

市にあり、徒歩圏内に新幹線福山駅があっても中心市街地の衰退の流れには逆れません。1980年代には商店街の店舗数100であったものが徐々に減少し、2000年頃には60まで減少しました。そのうちの1/3が空き店舗であり、街は閑散とした雰囲気になりました。

また、商店街にあった全蓋式のアーケードは築後

30年を経過して老朽化が進んでおり、年間100万円の修繕費が減り続ける組合員には大きな負担になっていました。天蓋を撤



ホームページより

去してしまうと、商店街の上を走る高圧電線が現れて街の景観を損なう。電線の埋設は順番待ち状態で、かなり先の工事になる。アーケードの天蓋の一部落下の事故もあり、待ったなしの状態でした。

当時、組合の元理事長であった木村さんは組合員に「アーケードを修理するにも組合に自己資金はない。空き店舗は増えるし、商店街をもうやめるか。」と問いかけました。すると、その問いかけに対する反応は意外なものでした。「かつては福山一の繁華街。商店街を再生したい。」

■市民と共に再生を目指す

「21世紀に通じる新しい形の商店街を目指す。強力なイメージチェンジを目指す。」ことで組合員の意思が固まった後、具体的にどう再生していくか。アーケードなどハード面だけを新装しても商店街の活性化には繋がらない。まずは、市民参加型の店舗やイベントを継続して行うなどソフト面の事業から取り組み始め、地域の活気創出を図りました。



umbrella

2011年に空き店舗活用1号店としてコミュニティスペース「まちなか情報室ぜっぴ」を開設しました。店舗内にレンタルボックスを設け、マネージャーや日替わり店長としてボックスオーナー全員で運営する『ぜっぴ方式』という独自の仕組みを作って市民参

加に繋いでいきました。そして、物販以外に専門スタッフによる相談室やマッサージなども提供することで、物を売る楽しみだけでなく人と人とが集う楽しみを生みだしました。

次いで、本通商店街でパンのフリーマーケットを開催しました。天然酵母や無農薬野菜など素材にこだわったパンをつくる出店者を商店街に集めたところ1,000人を超える人が訪れ、イベント開始1時間半後にはパンが全て売り切れるという大盛況ぶりでした。

また、空き店舗を若者のボランティアと共にリフォームしたコミュニティハウス「umbrella」を開設しました。店内にはレンタルボックスの他、カフェや施設の一角をチャレンジショップにするなど、これまで商店街と関わりの薄かった若者層が集う場を設けることで、新たな賑わいを創り出しました。

■人が歩く喜びを、もう一度取り戻す

様々なソフト事業に取り組みながら、同時進行でアーケード改修を進めていきました。協議を重ねる中で「経年劣化しないもの」「自然環境と調和するもの」「福山から世界に発信できるもの」と方針を固めたうえで、2011年に福山市生まれの建築家前田圭介氏に設計を依頼することにしました。前田氏は緑と光を活かした建築で世界的にも評価を得ており、その実績が組合員の目にとまりました。

具体的な設計案を協議していく中、「真剣に議論して建設したアーケードを、わずか30年で撤去するのは馬鹿らしい。」という天蓋への思い入れと当時の賑わいへの捨てがたい記憶が組合員に残っていることが判りました。そこで、前田氏は記憶を継承できるようにアーケードの鉄柱を残すことにし、上部にメンテナンスフリーのワイヤーを渡すことにしました。そして、樹木を鉄柱の周りに植えることで通り沿いの建物の不調和やアーケードの撤去跡を隠していきました。また、高木と中木、低木と高さの異なる樹と地表を覆う植物をリストアップし、商店街の全店舗を回って各店の雰囲気や好みを反映して組み合わせることにより店舗と道路の一体感を持たせました。

閉鎖的な全蓋式のアーケード街を、自然あふれる樹木の下で“歩く喜び”を感じられる公園的な通り



鉄柱の周りに各店舗にあわせて植物を植えている

へ生まれ変わらせたことにより、このプロジェクトは2017年にグッドデザイン賞を受賞するに至りました。

■個性の明確化と仕組みづくり

ストリートガーデンは21世紀型の新しい商店街として注目を集め、歩行者数が増えるとともに商店街への新規出店も相次ぎました。しかし、店主の平均年齢は70歳を超えており、いずれ閉鎖される可能性のある店舗が通りのそこここにあります。そのため、「落ち着いた大人の街」という個性を明確に打ち出し、魅力ある個店の出店とコミュニティの形成を更に促進していくことが必要と考えました。

そこで、組合内に「街づくり事業部」を設けるとともに、市民参加の組織を「街づくりNPO」とし、両者が連携していく体制を作りました。街づくり事業部は事業全体の管理を行い、NPO内には空き店舗情報の管理や賃貸支援を行う「空き店舗バンク」、中高年齢層の市民のコミュニティ形成を図る「ぜっぴ」、若年層の市民や学生、創業者のコミュニティ推進とイベント企画・実行を行う「umbrella」の三つの部門を設けました。現場運営の女性ゼネラルマネージャー栗田さんのリーダーシップのもと、老若男女のコミュニティーの連携が見事に実現しているようです。

これにより、組合は賑わい創出のための「ハード面」の形成と維持を司り、NPOはその空間を利用して市民参加を促す「ソフト面」に取り組むという商店街運営の新しい仕組みづくりに挑戦しています。

(中小企業診断士 齋藤晴美)



左から木村さん、栗田さん

福山本通商店街振興組合

(とおり町交流館)

街づくり事業部参与：木村 恭之

住 所：〒720-0044 広島県福山市笠岡町1-13

電 話：084-932-6727

U R L：http://www.gakki.com/tooricho/

お 店 拝 見

明石の海の幸たっぷりのお弁当とおにぎりが自慢!

地元特産品販売じんだい

山陽電車東二見駅から南東へ徒歩 5 分、南北に延びる小さな商店街の一角に地元特産品販売じんだいがあります。商店街を南に歩くとわずか 10 分ほどで二見漁港に突き当たります。漁港では、毎日のように新鮮な海の幸が水揚げされています。

じんだいは、漁港で揚がった魚や海苔だけでなく、店主のお義父様が自ら捕ってくる蛸やわかめ、昆布といった新鮮な素材をふんだんに使った店主手づくりのお弁当やおにぎりが自慢の逸品となっています。そのやさしい味の評判は口コミでどんどん広がっています。



このまま店をなくすのはもったいない・・・

義父の店を継承

店主の神代佳子さんは、25 年前に嫁いで以来、義父である充宏さんが営む手焼きせんべい店を手伝ってきました。せんべい店は現在の



店舗内

の店舗より南寄りにありましたが、13 年前に完全に閉店し、現在の建物の 1 階で海産物を販売するようになり、佳子さんも引き続きお店を手伝うことになりました。この建物は、もともと商店街の所有であり、鮮魚店が閉店したことを受けて、商店街自らいかなごのくぎ煮や海苔などの海産物を販売していました。平成 18 年、商店街会長を退いた充宏さんが 1 階部分を借り受け、自ら捕ってきた蛸やわかめ、昆布、生のいかなごやちりめんじゃこなども販売するよう



店頭で配布しているチラシ

になりました。

佳子さんは、最初はお店を継ぐ気はありませんでしたが、子育ても一段落し、お店に携わる時間が多くなるにつれ愛着も強くなり、このままお店をなくすのはもったいないという気持ちが芽生えてきました。もともと商売が好きで、せんべ

い店を手伝っていた 10 年余りの間に多くのお客さんと親しくなったこともお店を継ごうと思ったきっかけのひとつです。一方で充宏さんも高齢となり引退を検討していたタイミングと重なったこともあり、商工会議所から当センターの商店街事業承継支援事業を紹介され、その補助金を活用して新たなお店のスタートを切ることとなりました。

素材を活かしたシンプルでヘルシーな

手づくりお弁当とおにぎり

佳子さんは、漁師でもあるお義父さんと同じ方法で海産物を仕入れることはできないため、何か自分なりに新しいことをしようとおにぎりの販売を始めました。



おにぎり

そのうち、お弁当もほしいというお客さんの要望が増えてきたことに応じてお弁当も販売することになりました。

おにぎりは、2 個入りパックで全品 350 円です。自慢の蛸飯をはじめとして新鮮で獲れたての海の幸を使ったパエリア風や、5 種の豆、栗おにぎりが定番となっています。さらに、旬のわかめやちりめんじゃこのおにぎり、豚肉と白ネギを一緒に炊き込んだ中華風おにぎりなど限定メニューも人気があります。

おにぎりは、衛生面を考慮してすべてお米と具材を一緒に炊き込みます。先に炊いておいたごはん



(左)500円弁当 (右)600円弁当
お弁当の中身や量を予約時の要望にあわせて作っている

後から具材だけを混ぜると時間も手間も省けるのですが、あえてそれをしていないのは、お客さんに安心して美味しく食べていただくことを第一に考えてのこだわりです。

お弁当は、おにぎりに佳子さん手づくりのオリジナルお惣菜を添えた



オードブル

おにぎり弁当 500 円が好評です。最近では、子ども会や発表会、スポーツの大会等での大口注文も受けるようになりました。時には、蛸や魚が苦手な子供用にとハンバーグや空揚げなどの要望もあり、これらもでき合いのものを使わず、すべて手づくりで対応しています。さらに、オードブルやお弁当の内容変更の要望にも柔軟に応えるようにしています。

PR はチラシだけで、特に際立った宣伝はしていませんが、何かの会合でたまたまじんだいのお弁当を食べた方が、今度は自分が主催する会合でも同じものが欲しいとまとめて注文してくれるケースもあるなど、素材の良さを活かしたシンプル＆ヘルシーな手づくりお弁当の評判は人づてにどんどん広がっています。

地域の人に気軽に来てもらい、

集まってもらえる場にしたい

店舗の 2 階は調理場兼コミュニティスペースとなっています。佳子さんは、このスペースを地域の人々が気軽に集える場にしたいと考えています。これまでも、カルチャー教室に貸したり、自治会の会議に使ってもらったりして、利用料の代わりにお弁当を注文してもらうなどお店との相乗効果も生まれつつあります。しかし、このようなスペースがあることがあまり知られていないのか、利用頻度はまだ多くはありません。お店も合わせて、子育て世代など若い方にもつ

と来てほしいと思っていますが、用がなければ入りにくい、敷居が高い・・・などという印象を持たれているようで、それが今の悩みとなっています。

一方で、今、佳子さんの頭の中には、地域の人との絆を深めるためのたくさんのアイデアが溢れています。例えば、昔使っていた機械を利用したカステラ焼き体験会やわかめ狩り体験ツアーなど、じんだいならではの楽しい企画です。すでに、佳子さんが講師となって魚の捌き方教室も開催しました。

この場所が、地域の人が集い、話し、安らぎ、学ば場となる日も近いことでしょう。

地域の人に喜んでもらいたいと心をこめて作ったお弁当は、お年寄りの方など外に出ることが難しい方にはたった一つだけでもお届けしてい



二階のコミュニティスペース

ます。そして「おいしかったよ!」と言われるととても嬉しい、だからお弁当作りはとても楽しくて、それができるからお店を継いだと佳子さんは笑顔でおっしゃいます。

素材にこだわり、作り方にこだわった手づくりお弁当とおにぎりは、これからも地域の人々を魅了し続けることでしょう。

(中小企業診断士 木之下尚令)



神代佳子さん・神代智佐子さん

店名 地元特産品販売じんだい

住 所：明石市二見町東二見 422
代 表：神代 佳子
電 話：078-942-1758
U R L：https://akashi-jindai.jp/
営業時間：9：00～16：00
定 休 日：日曜

オープンしました

(公財) ひょうご産業活性化センターでは、商店街や小売市場の空き店舗に新たに出店される方を支援するために、店舗賃借料や改装工事費等を助成しています。
今回、新たに下記の2店舗が開店しましたのでご紹介いたします。

店舗名 レトロなくまのつーさん 飲食店



- 商店街・小売市場名 清荒神市場
- 住 所 宝塚市清荒神1-11-1
- 電 話 0797-97-1476
- 開 業 日 平成31年1月15日

お店の自慢

昭和の雰囲気を残したレトロな清荒神市場の中で昔を懐かしんでゆっくりした時間を楽しみませんか？お食事は、宝塚西谷地区の新鮮なお野菜を存分に感じて頂ける野菜メニューや糖質制限を考えたメインからデザートまで。何といても当店だけのオリジナルブレンド珈琲（商品名：宝塚ブレンド）をぜひ飲んでください。近々、携帯型翻訳機も準備しますのでぜひ海外の方々も古き良き時代の日本の清荒神を感じてください。お待ちしております。

店舗名 BeansPot 芦屋店 小売業



- 商店街・小売市場名 ラポルテ北館名店会
- 住 所 芦屋市大原町11-24-101
- 電 話 0797-61-6899
- 開 業 日 令和元年7月15日

お店の自慢

世界中から厳選したコーヒー豆を毎日丁寧に自家焙煎しています。オリジナルブレンドラベルやギフトパッケージにはサカモトリョウさんが描く女の子「ココちゃん」を使用。美味しいコーヒーと一緒に季節やさり気ないメッセージをお届けできるような商品づくりに努めています。また、数種類のマヌカハニーをはじめ、数多くのニュージーランド産はちみつやニュージーランドアワードでゴールドメダルを受賞した花粉だんご「ビーポーレン」等を取り揃えております。

商店街や小売市場の空き店舗で新たに出店をお考えの方は当センターまでご相談ください。

▶ バックナンバーの閲覧は 商ひょうご

検索



公益財団法人 ひょうご産業活性化センター 経営推進部 経営・商業支援課

〒650-0044
神戸市中央区東川崎町1丁目8番4号 神戸市産業振興センター2階
TEL 078-977-9116 FAX 078-977-9119
URL <http://web.hyogo-iic.ne.jp/>
E-mail center@staff.hyogo-iic.ne.jp
休業日／土・日・祝祭日・年末年始